

内容

1. 認定看護師委員会による生涯教育講座報告 山近真実
2. 認定看護師紹介・よろず相談実施報告 大淵友紀
3. 認定看護師からの活動報告 工藤紘子、渡邊和恵
4. 認定看護師委員会からのお知らせ



認定看護師が実践する卓越したベッドサイドケア ～在宅ケア移行支援～ 実施報告

手術看護認定看護師 山近真実

この研修会は、昨年に引き続き在宅療養支援というテーマで取り組みました。今年度は患者の希望を叶えるための看護アセスメントや施設間および他職種との連携における看護のポイントを理解するという点に目的を置きました。講演は旭川医科大学看護学科 在宅看護学講座 照井レナ教授、事例報告を大宮剛脳卒中リハビリテーション認定看護師、杉山久美緩和ケア認定看護師で実施しました。



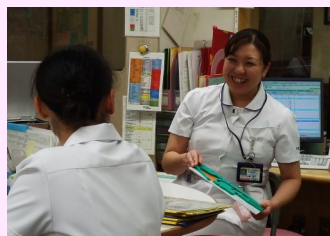
参加者は院内外を合わせ77名でした。参加者の感想からは「転院がゴールではなく、その後の生活まで考えて患者・家族と接していたことが印象に残った」「生きる豊かさとは何だろう、その人が幸せだったと思える関わりが自分にできていたかを考える機会になった」「これからも地域との連携を意識して看護に取り組みたい」という声が聞かれ、参加者の満足度は高く好評でした。

患者やその家族が希望する医療を在宅で実現できるよう、地域におけるそれぞれの医療機関の役割、そしてあらゆる場面で患者に関わる看護師が役割を認識することができたのではないかと考えます。

カンファレンスに参加して

摂食・嚥下障害看護認定看護師 工藤紘子

今回、嚥下訓練の情報共有のために7階西ナーステーションのカンファレンスに参加しました。対象は皮膚筋炎による食道入口部(上部食道括約筋)開大不全があり、食事摂取が困難となりリハビリを開始した方でした。間接訓練としてチューブ嚥下訓練・バルーン拡張法を実施し、3食常食摂取できるようになりました。この訓練は、バルーンカテーテルを利用し、食道入口部を機械的に拡張し、食塊の咽頭通過を改善する手技です。手技が確率すれば、患者さん自身で実施可能です。カンファレンスでは手技が確立したため、訓練の目的や注意点をもとに個別対応を今後どのように実践し、退院調整を進めるかを話し合いました。嚥下訓練や使用物品についての質問があり、模型を使いながら説明しました。



今後もスタッフの皆さんと一緒に疑問点や介入方法を考えられるようにコンサルテーションを実践したいと考えています。連絡をお待ちしていますので、気軽に相談して下さい。

認定看護師活動紹介・よろず相談を開催して

新生児集中ケア認定看護師 大淵友紀

日頃、私たち認定看護師がどのような活動を行っているのか、看護職の皆様にご覧いただくことを目的に初めて認定看護師活動紹介、よろず相談を開催しました。参加者は63名でした。活動紹介では、各認定がそれぞれの活動について、スライドを用いて紹介しました。また、分野ごとにブースを作り、活動をアピールできるものを展示し、参加者の皆様からの質問や相談を受けました。参加者からは、「認定看護師の活動を理解できた」「工夫された展示で興味深くみれた」「気軽にコンサルテーションして良いのだと感じた」など多くの感想を頂きました。認定看護師委員会としても、初めての試みで多少の不安はありましたが、参加者の皆様の感想を聞き、開催して良かったと感じています。



今後もこのような活動を通して、認定看護師の活動を知っていただき、より気軽に活用していただければ、嬉しいです。患者さんへのケアで困っていることがあれば、いつでもご相談ください。

専従CNIC(感染管理認定看護師)の活動

感染管理認定看護師 渡邊和恵



CNICは感染を予防・最小限にすることで看護の質向上を目指しています。朝は院内情報の把握から始まり、ベッドコントロールに必要な情報を各部署に提供し、記録や現状を確認しています。サーベイランスはVAP,VAE,手指衛生,症候群(インフルエンザ・感染性胃腸炎),耐性菌のサーベイランスをチームで実施しています。各々の課題に向け日々地道に数字を追いかけています。週1回はラウンドを実施しています。多職種でのラウンドは、気づきも多くよりよい改善案が出る事を実感しています。

相談は現場につながる大事な活動で、件数も増えてきています。午後は病棟などに出向いていますので、気軽に声をかけて下さい。電話(PHS 8422)もお待ちしています。

認定看護師委員会より

部署のベッドサイドケアの質の向上に認定看護師をご活用ください！質の高いケアを一緒に実践していきましょう！！